

ど の し た 淵

【3年間の想い】

公民会長を仰せ仕かっから早3年の月日が流れようとしています。何処の地域においても少子高齢化が進行する中、集落の維持・運営は年々厳しくなっています。

平成元年大平集落と合併したときは、50戸あった戸数も、現在27戸、約半分になっています。これからも減る要因はあっても、増える要素は当面見込めません。

そんな中、今までの公民会運営ではなりゆかなくなることが目に見えているので、世帯代表だけが参画するだけでなく、公民会内在住者全員で参画する取組として、グループ分けによるボランティア作業を実施しました。①ヤングアダルト&ジュニア②ウーマン③シニアの3グループに分けての奉仕作業です。思いがどれほど伝わったかは定かではありませんが、これからもみんなで紡ぐ意識は持ち合わせて行きたいものです。

区においても同様です。今までの活性化委員会の運用を一掃し、区に直結した運営方式に変更し、あらゆる委員、組織の代表が参画し、地域の事をみんなで協議していく組織に編纂する計画です。

要請の幅が広がりますので、新たに委員に要請される方々もいらっしゃるかもしれませんが、より豊かな地域の創造のために

「よくよく 語って いっしょに」

3年間、皆様の御協力に感謝いたします。有難うございました。

発行責任者

高峯公民会長

三 腰 善 行

090-1089-9432

令和6年3月1日発行

【3年間の想い part②】

JAグループのコマーシャルでSDGsの取組みにかかる放送ご存知ですか。

「おたがいさま・おかげさま・もったいない」昔から大切にしてきたものが、今、SDGsと呼ばれるようになりました。まさしくそうですよ。昔から人々は大切なモノ、コトを実践していたのです。いつの間、当たり前のことが薄らぎ、生活の中から忘れ去られてしまったのでしょうか。利潤・便利さ・時短の追求・・・高度成長の中で、先人が大切にしてきた当たり前が見えなくなってしまうのですかね。

年度ごとに活動方針のテーマを定め、のぼり旗を作成しました。いつまでも繋いでいきたい思います。

令和3年度「おもいやり」
令和4年度「おたがいさま」
令和5年度「気づき・動き・紡ぐ」

【うれしい帰郷者】

大阪に出郷されていた木ノ下康夫さんが帰郷されました。上段に述べた状況の中、とてもうれしく、歓迎すべき事です。

しばらくは、住まいのメンテナンスや、環境整備にてんやわんやの様ですが、総会（17日）の懇親会に案内し旧交を深められたらと思います。



だかね寺小屋

【薩摩のさつま】ブランドってなうに!!

「薩摩のさつま」の独自認証基準を満たし認証を受けたさつま町の逸品です。2022年度に20の事業者で23品目の認証を受けました。2023年度には、新たに10の事業者で10品目の認証を受けています。

■アスパラガス（松金農園・松木園 幸平氏）

さつま町の寒冷な冬の寄稿を活かして、しっかりと養分を蓄えたアスパラガスは、強い甘みと濃厚な特有の味を感じられ、根元まで節が少なくて柔らかいので美味しく食べられます。

有機肥料を中心に与えることで甘くて美味しいアスパラガスを目指しています。朝夕、一日二回収穫することで品質のいいものを提供しています。※町H・Pより



ふるさと回顧録

『泊野に生きて』最終章 大阪府八尾市 久木野正志

泊野を後にした（就職）以降（昭和44・45令和4）

◆大阪に就職してから53年。泊野18年の約3倍の大阪暮らしになった。結婚し、子供達も大きくなって、私一人で毎年春・夏・秋・冬、年4回（1回7日、10日程）泊野に帰っている。見慣れた紫尾山（一ツ木あたりから見るのが一番いい）や田んぼの稲の成長と緑色から黄金色。心洗われて、また大阪の仕事に向かった。もう一つ泊野に帰る理由は、小学校の同級生が多くおり、にわか同窓会が楽しみであった。宮田下の泊野林業集会所を借りたこともあった。小学校の運動会に「ふるさと応援団」として初めて参加したのも私たちのクラスだった。

◆地震・・・平成9年3月26日午後5時31分震度5強が襲った。さらに、同年5月13日午後2時38分震度5強が又来た。裏山が崩れたり、家が壊れたりした。久木野集落では6家族が仮設住宅に入った。私の親もお世話になった。想像もしていない程の地震でした。

◆閉校・・・泊野小学校が閉校。平成28年3月31日、137年永きにわたる歴史に幕を閉じました。思い出がいっぱいの小学校が閉校になって泊野がなくなつたように思えた。6年間の思い出はそれぞれの卒業生がしっかりと心の奥に刻んでいる。卒業生1879名（閉校記念誌より）の名字ベスト10は次の通りである。ちなみに名字は144組だった。①市野222 ②北野146 ③久木野 143 ④大平120 ⑤崎野113 ⑥三腰112 ⑦楠八重101 ⑧平野84 ⑨宮田80 ⑩小向井54 計1175で63%を占める。

◆母の畑・・・屋敷の周りに細々と野菜を作っていた。昔は桑畑だった。鹿や猪の被害が始まり、年齢的にも次第に遠ざかり、7年前に他界。現在竹藪になった母の畑を見ると涙が出る。

◆人口と世帯の推移・・・昭和29年8月1日現在（町報宮之城など参考）の泊野の人口は1492人（男736・女756）世帯248。1世帯平均6人となる。現在からは想像できないが・・・集落別人口は楠八重166、市野213、宮田上160、宮田下143、久木野231、大平144、高峯435。世帯は楠八重34、市野35、宮田上27、宮田下31、久木野55、大平24、高峯42。人口は高峯、世帯は宮田が多かった。その後（泊野全体で、昭和29年との比較）昭和40年が人口859人（44%）世帯212戸（85%）。平成30年3月31日推計人口212人（14%）世帯109戸（44%）となっており、減少は止まらない。この人口推移の資料は、崎野裕二君（当時さつま町役場総務課長）にお願いしました。加えて「町報宮之城」などから泊野に限った写真や記事を探してくれました。おかげ様で「私たちの泊野」の表題で冊子作成し、第1回関西きくら会で発表できました。

◆関西きくら会・・・平成29年5月泊野集会所をお借りして同窓会をしました。その際、北野日土さん（当時泊野区公民館長）に「関西で泊野出身者の集まりの会を立ち上げてくれないか」との話がありました。一方、関西さつま会（会長 市野 英司さん 市野出身）が存在している中で会長にいきさつを説明し、相談の結果前に進むことになりました。そして同級生5人を中心に準備して、平成30年6月30日（日）に第1回関西きくら会を開催（約40名参加）、第2回を令和1年6月30日（日）に開催（34名参加）できました。毎年6月最終日曜日開催をきめていましたが、新型コロナウイルス感染拡大により令和2年、3年とやむなく中止となりました。

◆遺したい泊野ことば・・・人口減少をはじめ、泊野の良かった風景がだんだん変わっていく中、小学校閉校となりました。昭和の良き泊野の何かを記録に遺したいと思い立ったのが「泊野ことば」でした。小学校の同級生に思いを告げて協力をお願いしました。結果1124語集まり、冊子にして第2回関西きくら会「ひなたぼっこ」の表題で発表。表紙絵は小向井一成さんをお願いして作成していただきました。更には同年8月18日付け南日本新

聞地域総合版に取り上げていただきました。私の記念となりました。

◆こだわり・・・私の戸籍上の本籍地は今でも「鹿児島県薩摩郡さつま町泊野6363番地」です。加えて私の車のナンバーは「大阪・・・6363」です。

◆泊野ありがとう・・・青空と白い雲。山の緑。田んぼの緑と黄金色。限りなく透明な泊野川（きくら川）自然豊かな食材。澄み切った心の人々。泊野はいつまでもいつまでもこのままいてほしい。父母にも泊野に産んでくれてありがとう。私は、今年満72歳。

◆大阪在住の久木野正志さんがしたためてくださった手記を8章に渡って「ふるさと回顧録」として掲載しました。「関西きくら会」の立ち上げや、「遺したい泊野ことば」の編集などふるさと泊野への想いを紡いでくださいました。出郷者にとつてのふるさととは生活していた頃のままのようで、ふるさに対する熱い思いが伝わってきます。ともすれば在住者が忘れがちな泊野の魅力に気づかれます。泊野の歴史や神話、自然は未来永劫に残っていくでしょうが、人々の暮らしはどうでしょう。現代は世界中どこにいても様々な情報を得ることが出来るし、出来る仕事もあります。ふるさと回帰、田舎暮らしなどのワードも聞かれるようになりました。地元に住む自分たちが改めてふるさとを見つめ直し、真の豊かさを彷彿できる泊野を創りあげて行きましよう。正志さん有難うございます。これからもよろしく願います。 三腰 善行